

古文「重要名詞・時の古語」100題ドリル 解答編

無料ダウンロード(縦書き・印刷可)

Q1. 答え：早朝。

解説：「つとめて」は『早朝』。現代語の「勤めて(努力して)」とは無関係。冬の趣として『早朝』をいう。

Q2. 答え：翌朝。

解説：前夜の出来事を受けると「つとめて」は『(その)翌朝』の意。ここは「昨夜」を受けて『翌朝』。

Q3. 答え：夜明け・明け方。

解説：「あけぼの」は『夜が明けてほのぼのと明るくなるころ』夜明け。空が次第に白むさまをいう。

Q4. 答え：朝。

解説：「あした」は『朝』。夜(ゆふべ)と対になる語で、現代語の「明日(みらいの日)」ではない。「朝(あした)」と「夕(ゆふべ)」の対。

Q5. 答え：翌朝。

解説：前夜の出来事(祭り)を受けて「あした」は『翌朝』の意になる。『明日』ではない点に注意。

Q6. 答え：夕方(日暮れ)。

解説：「ゆふべ」は『夕方・日暮れ』。「あした(朝)」と対の語。今の「昨夕」とは限らない。

Q7. 答え：夜(一晩中の「夜」)。

解説：「よ」は『夜』。「夜もすがら」一晩中のように使う。次の「世」と区別すること。

Q8. 答え：世の中・世間。

解説：「よ(世)」は『世の中・世間』。無常をいう常套。直前の「夜」と同音異義なので文脈で判別する。

Q9. 答え：一生・人生（この世）。

解説：「よ(世)」は『一生・この世・人生』の意でも使う。「人の世」人の一生」。

Q10. 答え：御代（治世）。

解説：「よ(世)」は『治世・御代』の意。「帝の御世」帝の治世」。

Q11. 答え：時間（あいだ・ころ）。

解説：「ほどなく」で『まもなく・時をおかず』。「ほど」は時間・あいだを表す。多義語の一面。

Q12. 答え：あいだ（時間）。

解説：「〜がほど」で『〜のあいだ』。ここは『二、三日のあいだ』。時間の意。

Q13. 答え：身分・分際。

解説：人の格の話では「ほど」は『身分・分際』。「そのほどにあらず」その身分に釣り合わない」。

Q14. 答え：年齢・年ごろ。

解説：「ほど」は『年齢・年ごろ』も表す。「おとなびたるほど」大人びた年ごろ」。

Q15. 答え：程度・ぐあい。

解説：「ほど」は『程度・ぐあい』。「悲しさのほど」悲しさの程度」。状態の度合いをいう。

Q16. 答え：〜とのこと・〜という趣旨。

解説：「よし(由)」は伝聞・報告で『〜ということ・〜という趣旨』。「参らぬよし」参上しないとのこと」。

Q17. 答え：由緒・いわれ。

解説：「よし(由)」は『由緒・いわれ・趣』。「よしある」由緒がある・趣がある」。

Q18. 答え：理由・わけ。

解説：「よし(由)」は『理由・わけ』。「言ふよし〓言う理由」。多義語の基本義の一つ。

Q19. 答え：理由・原因(ゝなので)。

解説：「ゆゑに」は『ゝが理由で・ゝなので』。「ゆゑ(故)」は理由・原因を表す。

Q20. 答え：心・気持ち。

解説：「こころ」の基本義は『心・気持ち』。現代語に近いが、以下のように意味が広い。

Q21. 答え：意味・趣旨。

解説：「こころ」は『歌・文の意味・趣旨』。「歌のこころ〓歌の意味・趣旨」。現代語より広い。

Q22. 答え：分別・思慮(情趣を解する心)。

解説：「こころなし」は『分別・思慮がない／情趣を解さない』。ここは『分別・情趣を解する心』の意。

Q23. 答え：(ゝの)感じ・けはい(こころでは「身近な感じ」)。

解説：「け(気)」は『様子・気配・感じ』。「け近し〓親しみやすい・身近な感じだ」。他語と結びついて使う。

Q24. 答え：気配・様子・感じ。

解説：「け(気)」は『気配・感じ』。「恐ろしきけ〓恐ろしい気配」。「ゝのけ〓ゝの感じ」。

Q25. 答え：機嫌(きげん)。

解説：「けしき(気色)」は『機嫌・意向』。「けしきあし〓機嫌が悪い」。自然の「景色」ではない点が最重要。

Q26. 答え：様子・ありさま(ありさま)。

解説：「けしき(気色)」は『様子・ありさま、きざし』。「空のけしき〓空の様子・(荒れる)きざし」。なお人の様子・機嫌の意が基本。

Q27. 答え：様子・意向（顔色）。

解説：「けしき(気色)」は人の『様子・意向・顔色』。「けしきをうかがふ」意向・顔色をうかがう」。

Q28. 答え：様子・状態。

解説：「ありさま」は『様子・状態・ようす』。「在り様」。人や物事のありようをいう。

Q29. 答え：かねてからの望み・本来の願い。

解説：「ほい(本意)」は『かねてからの望み・本来の願い』。「年ごろのほい」長年の願い」。発音は「ほい」。

Q30. 答え：かねての本意・本来の望み。

解説：「ほい(本意)」は『かねての本意・本来の望み』。「ほいを遂ぐ」かねての望みをかなえる」。

Q31. 答え：本意（↓ほいなし）不本意だ・残念だ）。

解説：「ほいなし」は『不本意だ・残念だ』。名詞「ほい(本意)」に打消の「なし」がついた形。

Q32. 答え：機会・おり。

解説：「ついで(序)」は『機会・おり』。「言ふついでに」話のついでに(機会に)」。現代の軽い「ついでに」とはやや別で、順序・機会之意。

Q33. 答え：順序・次第。

解説：「ついで(序)」は『順序・次第』。「このついで」物事の順序」。

Q34. 答え：時・場合。

解説：「をり(折)」は『時・場合・季節・機会』。「雪の降るをり」雪の降るとき」。

Q35. 答え：機会・おり（タイミング）。

解説：「をり(折)」は『よい機会・タイミング』。「よきをり」ちようどよい機会」。

Q36. 答え：先例・前例。

解説：「ためし(例)」は『先例・前例・例』。「昔のためし」は『昔の先例』。「現代語「試し」ではない。

Q37. 答え：手紙。

解説：「せうそこ(消息)」は『手紙・たより』。「せうそこを遣はす」は『手紙を送る』。安否・連絡の意。

Q38. 答え：案内を請うこと・取次ぎを頼むこと(訪問の案内)。

解説：「せうそこす」は『訪れて案内を請う・取次ぎを頼む』。来訪を告げる動作。手紙だけでなく訪問の意もある。

Q39. 答え：手紙。

解説：「ふみ(文)」は『手紙』。「ふみ来たり」は『手紙が来た』。恋文・たよりの意。

Q40. 答え：学問(漢学・書物)。

解説：「ふみ(文)」は『学問・漢学・書物』も表す。「ふみの道」は『学問の道』。手紙の意と区別する。

Q41. 答え：話・世間話(語り合うこと)。

解説：「ものがたり」は『話・世間話、語り合うこと』。「ものがたりす」は『話をする・語り合う』。作品名だけの語ではない。

Q42. 答え：物語(作品)。

解説：「ものがたり」は『物語(作品)』も表す。文脈で「世間話」か「作品」かを判断する。

Q43. 答え：現実。

解説：「うつつ(現)」は『現実』。「夢かうつつか」は『夢か現実か』。「ゆめ」と対で覚える。

Q44. 答え：正気(↓うつつなし)は『正気でない・ぼんやりする』。

解説：「うつつなし」は『正気でない・ぼんやりする』。「うつつ(現)」は『正気・意識』の意も持つ。

Q45. 答え：夢（睡眠中に見るもの）。

解説：名詞「ゆめ(夢)」は『睡眠中に見る夢・はかないもの』。「うつつ(現実)」と対。なお副詞「ゆめくな||決してゝな」は別語。

Q46. 答え：準備・用意。

解説：「まうけ(設け)」は『準備・用意』。「まうけす||準備する」。「客人のまうけ||客のもてなしの準備」。

Q47. 答え：自分・わが身。

解説：「み(身)」は『自分・わが身』。「わがみ||自分自身」。身体だけでなく「自分」を指す。

Q48. 答え：身分・分際。

解説：「みのほど」は『身分・分際』。「み(身)」は『身分』の意も持つ。「みのほどを知る||身分をわきまえる」。

Q49. 答え：容貌・顔だち。

解説：「かたち」は古文では多く『容貌・顔だち・姿』。「かたちうるはし||顔だちが整っている」。単なる「形」ではない。

Q50. 答え：形・姿。

解説：「かたち」は『形・姿』の意も。「月のかたち||月の形」。人なら多く「容貌」になる点と対比。

Q51. 答え：心づかい・気だて（性質）。

解説：「こころばへ」は『心づかい・気だて・性質』。「こころばへやさし||気だてが優しい」。

Q52. 答え：趣・おもむき（風情）。

解説：「こころばへ」は物については『趣・おもむき・風情』。「木立のこころばへ||木立の趣」。

Q53. 答え：心づかい・配慮（注意）。

解説：「よい(用意)」は古文では多く『心づかい・配慮・注意』。「よい(深し)||配慮がゆきとどく」。現代語「準備」より広い。

Q54. 答え：事柄・出来事(事)。

解説：「(事)」は『事柄・出来事』。同音の「(言)」は「(言)」と文脈で区別する。

Q55. 答え：言葉(言の葉)。

解説：「(言)」は「(言の葉)」で『言葉』。「(言)」は『言葉』を表し、「事」と同音。「(言の葉)」は『言葉』。

Q56. 答え：思いやり・情趣を解する心。

解説：「(情)」は『思いやり・人情、情趣を解する心』。「(情)」は『思いやりがある・風流を解する』。

Q57. 答え：情け・風情(↓なまげなし)思いやり・風情がない)。

解説：「(情)」は『思いやりがない・無風流だ』。「(情)」の打消。

Q58. 答え：しみじみとした情趣・感動。

解説：名詞「あはれ」は『しみじみとした情趣・感動』。「あはれを知る」は『情趣を解する』。明るい「をかし」と対比される美的理念。

Q59. 答え：最期・臨終。

解説：「(最期)」は『最期・臨終』の意がある。「命のかぎり」は『命のかぎり』で限界・最後をいう。

Q60. 答え：全部・ありつたけ。

解説：「(全部)」は『全部・ありつたけ・すべて』。「(全部)」は『全部・くだけ』の意も持つ。

Q61. 答え：束縛となるもの・足手まとい。

解説：「(束縛)」は『束縛となるもの・足手まとい』。出家などの妨げになる肉親・愛情をいう。「子のほだし」は『子という束縛』。

Q62. 答え：色好み・風流(好色・風雅)。

解説：「(好色)」は『色好み、また風流・風雅の道』。「(好色)」は『好色の道』は『好色の道』は『好色の道』。

Q63. 答え：返事・応答。

解説：「いらへ(答へ)」は『返事・応答』。「いらへす」返事をする。「問ふ」に対する「答へ」。

Q64. 答え：実家・里(宮仕えを離れた私邸)。

解説：「さと(里)」は宮仕えの人にとって『実家・私邸』。「さとに下る」宮中から実家へ退出する。田舎・在所の意も。

Q65. 答え：宮仕え(朝廷・貴人に仕えること)。

解説：「みやづかへ(宮仕へ)」は『朝廷や貴人に仕えること』。女房・官人としての勤め。

Q66. 答え：宮中・内裏(御所)。

解説：「うち(内)」は『宮中・内裏』を指すことがある。「うちにさぶらふ」宮中にお仕えする。文脈で「内側」と区別。

Q67. 答え：音・鳴き声。

解説：「ね(音)」は『音・鳴き声』。「虫のね」虫の音(鳴き声)。「ねを泣く」声をあげて泣く。

Q68. 答え：声(↓ねを泣く＝声をあげて泣く)。

解説：「ねを泣く」は『声をあげて泣く』。「ね(音)」は『泣き声・声』の意。

Q69. 答え：端(はし)。

解説：「つま(端)」は『はし・へり』。「簾のつま」簾のはし。同音の「つま(妻・夫)」と区別する。

Q70. 答え：配偶者(妻、また夫)。

解説：「つま(妻・夫)」は『配偶者』。古くは男女どちらにも用い、女から男を「つま」と呼ぶこともある。

Q71. 答え：月末(みそか)。

解説：「つごもり」は『月の末・みそか』。月が「籠(こもる)」から。月が見えないのはこのため。「ついたち(朔)」と対。

Q72. 答え：月の初め（一日）。

解説：「ついたち(朔)」は『月の初め・一日』。「月立ち」の意。「つごもり(月末)」と対で覚える。

Q73. 答え：長年・数年来。

解説：「としごろ(年ごろ)」は『長年・数年来・数年間』。現代語の「年頃(適齢期)」ではない。

Q74. 答え：日ごろ・ふだん（ここ数日来）。

解説：「ひごろ(日ごろ)」は『ふだん・日ごろ、また数日来』。「ひごろの願ひ」ふだんの願い。

Q75. 答え：すきま・絶え間。

解説：「ひま(隙)」は『すきま・絶え間』。「雲のひま」雲の切れ間。現代語の「暇(自由時間)」とずれる。

Q76. 答え：よりどころ・つて（よい機会・縁故）。

解説：「たより(便り)」は『よりどころ・つて・よい機会、縁故』。「よきたより」よい機会・つて。現代の「便り(手紙)」より広い。

Q77. 答え：ついで・きつかけ（伝手）。

解説：「風のたより」は『ふとしたきつかけ・人づて』。「たより(便り)」は『きつかけ・つて』の意。

Q78. 答え：顔。

解説：「おもて(面)」は『顔・顔面』。「おもてを赤らむ」顔を赤らめる。「面目」の意でも使う。

Q79. 答え：恨めしく思う気持ち（うらみ）。

解説：「うらみ(恨み)」は『恨めしく思う気持ち』。「うらむ」の名詞形。つれない相手への恨みをいう。

Q80. 答え：目を覚ますこと・はっと気づくこと。

解説：「おどろぎ」は『目が覚めること・はっと気づくこと』。「おどろく」目を覚ます・はっと気づく」の名詞形。現代語の「びっくり」だけではない。

Q81. 答え：管絃・詩歌などの遊宴（音楽の催し）。

解説：「あそび(遊び)」は古文では多く『管絃・詩歌の遊宴、音楽の催し』。「あそびす」音楽などを楽しむ。子どもの遊戯とは限らない。

Q82. 答え：形見・思い出のよすが。

解説：「かたみ(形見)」は『形見・思い出のよすが』。亡き人や別れた人をしのぶよすがとなる物。

Q83. 答え：年齢・年。

解説：「よはひ(齢)」は『年齢・年』。「よはひかたぶく」年老いる。

Q84. 答え：行き先・行く末。

解説：「ゆくへ(行方)」は『行き先・行く末・将来』。「ゆくへも知らず」行き先もわからず。

Q85. 答え：別れのつらさ・余韻（名残）。

解説：「なごり(名残)」は『別れのつらさ・余情・余韻』。「なごり惜し」別れがづらい。

Q86. 答え：予定・あらかじめの心づもり。

解説：「あらし」は『予定・あらかじめの計画・心づもり』。現代語の「あらし(概要)」とずれ、『将来への予定・期待』をいう。

Q87. 答え：効きめ・効験。

解説：「しるし(験)」は『効きめ・効験・ご利益』。「しるしあり」効きめがある。祈祷・薬の効果をいう。

Q88. 答え：前兆・きざし(徴)。

解説：「しるし(徴)」は『前兆・きざし』。「古事のしるし」よいことの前兆。「験(効きめ)」と書き分けることもある。

Q89. 答え：明け暮れ・毎日(朝な夕な)。

解説：「あけくれ(明け暮れ)」は『朝夕・毎日・いつも』。「あけくれ文を読む」毎日書物を読む。

Q90. 答え：昔・過去。

解説：「いにしへ(古)」は『昔・過去・大昔』。「いにしへの」昔の。「今」と対の語。

Q91. 答え：将来・行く末。

解説：「ゆくすゑ(行く末)」は『将来・行く末』。「いにしへ・むかし(過去)」と対。「子のゆくすゑ」子の将来」。

Q92. 答え：ころ・時分(時間)。

解説：「ほど」は『ころ・時分』。「入相のほど」日暮れの時分」。時間を表す多義語の用法。

Q93. 答え：身分・分際。

解説：「ほど」は『身分・分際』。「身のほど」身分・分際」。人の格をいう用法。

Q94. 答え：くとのこと・くという事情(趣旨)。

解説：「よし(由)」は『くということ・事情』。「旅立ちのよし」旅立ちするということ・事情」。報告・伝達の用法。

Q95. 答え：手段・方法。

解説：「よしなし」系で「よし」は『手段・方法』。「訪ふよしもなし」訪ねる手立てもない」。

Q96. 答え：内・内側(うち＝胸の内)。

解説：「うち(内)」は『内側・胸の内』。「このころのうち」心中」。先の『宮中』の意とは別で、文脈で判別する。

Q97. 答え：意味・趣旨。

解説：「このころ」は『意味・趣旨・主旨』。「絵のこのころ」絵の意味・主旨」。歌・文・絵の「このころ」は趣旨をいう。

Q98. 答え：様子・態度(ありさま)。


解説：「けしき(気色)」は『様子・態度・ありさま』。「もてなしのけしき」もてなしの様子」。やはり自然の景色の意ではない。

Q99. 答え：時・場合（季節）。

解説：「をり(折)」は『時・場合・季節』。「をりふし」はその時々・季節、「をりにかなふ」時宜にかなう。

Q100. 答え：くだけ・限度（ある間ずっと）。

解説：「かぎり(限り)」は『くの限度・くだけ・くの間ずっと』。「命あるかぎり」命のある間ずっと。

 あわせて読みたい

古文の重要名詞をやさしく解説（つとめて・ほど・よしなど）

誰でも古典塾 kotemosensei.com